

■島根県教育センター

研究主題：子どもをあるがまま理解しようとするについて
ー自分と他者との関わり方を見つめ直してー

長期研修員 森山 健一
(教育相談スタッフ 相談セクション)

【研修の概要】

本研修は、子どもを理解しようとするについて考え、教師としてのあり方を見つめ直すことを目的とした。これまで出会った子どもたちとの関わりを振り返ったり、来所教育相談を通じて得た気づきをもとにしたりして研修を行ってきた。多くの子どもたちとの関わりの中で、その主体性を高めたいと感じた。本報告は、自己理解を深めながら子どもの理解のあり方と学級経営への活かし方を考えてまとめたものである。

【キーワード】

子どもの理解 主体 基本的自尊感情 自己一致 感性

研究主題：人を“大事にする”とは

長期研修員 松本 典子
(教育相談スタッフ 相談セクション)

【研修の概要】

本研修は、教育相談にかかわる研修や来所教育相談を通して、子どもや保護者一人一人への寄り添い方、かかわり方を見つめ直すことを目的としている。教員としての自分、一人の人としての自分を振り返り、気付いたこと、変容したことを見つめ、今後の自分自身の生き方、教員としての在り方について考えたことについてまとめている。

【キーワード】

わかろうとする 信じる 待つ 聴く

研究主題：自立活動の視点を活かした子どもへのまなざし

長期研修員 飯國 香保里
(教育相談スタッフ 特別支援教育セクション)

【研修の概要】

子どもの見方や捉え方(子どもへのまなざし)について、子どもの実態把握から特別支援学級における自立活動の授業実践に至るまでの過程を経ることを通して考えた。子どもの発達に必要な子ども自らの「願い」を中心に授業実践を行っている。また、WHO(世界保健機関)が採択している「国際生活機能分類(ICF)」における障がいの捉えを基盤とし、目の前の子どもの姿をその子のすべてとするのではなく、その時々の子どもの周囲の環境との関係性を踏まえて、その姿を捉える視点をもつことが大切だとまとめている。

【キーワード】

子どもの「願い」 ICF 自立活動 周囲の環境 関係性

■島根県教育センター浜田教育センター

研究主題：「子ども同士がつながり合う学級づくりをめざして」
～解決志向アプローチでの教師の関わりを通して 小学校編～
長期研修員 日野山 和美
(教育相談スタッフ)

【研修の概要】

本研修は、学級の子どもたちがどうしたらつながり合えるのかということを目的としている。教師のマインドや立ち位置、そして、子ども同士が互いを認め合える関係づくりについての研修を行った。“解決志向”の視点から目の前の人を大切にするマインドを学び、子ども自身が自分や仲間・学級のよさに気づき、その力を学級の中で発揮できるような支援を“WOWWアプローチ”と“ピアサポート”を融合させながら実践した。これらの実践から、自分のよさや友だちのよさを認められるようになり、様々な場面で互いを助け合う子どもの姿が見られるようになった。

【キーワード】

解決志向 WOWWアプローチ ピア・サポート 子ども同士がつながり合う学級

研究主題：生徒一人ひとりが「自分のよさ」に気づける学級集団づくり
～解決志向型の関わりを通して 中学校編～

長期研修員 石川 勝正
(教育相談スタッフ)

【研修の概要】

これまで担任したすべての学級に不登校の生徒がいたため、「生徒が不登校にならないような学級づくり」が私の中の漠然としたテーマだった。そんな中、浜田教育センターで生徒指導・教育相談について学ぶことになり、「不登校」を解決する糸口として注目したのが“解決志向”の考え方であった。協力校では、生徒が自分のよさや友だちのよさに目を向け（リソースをコンプリメントし）、よりよい生活を自分たちでつくっていく（解決像を構築していく）実践を行った。同時に、解決志向型の関わりの効果を上げるには、生徒の話を「聴く」ことが大切であるため、教育センターでの教育相談では、相手の話を「聴く」ための土台である、相手の「気持ちに寄り添う」ことを意識して取り組んだ。協力校での実践では、解決志向型の関わりを積み重ねていくうちに、学級の人間関係がよくなり、生徒一人ひとりが自信をつけていく様子を見ることができた。そうした生徒一人ひとりの変化を見ていくうちに、私自身の「不登校」の捉え方は変わっていった。“解決志向”を学ぶまでは、「学校に行っていない」という状態を「できていない」という否定的な状態と捉えていたが、解決志向型の考え方で生徒を見ると、学校に行かない間にできるようになった「前進」があることに気づいた。教師が生徒と関わる時には、「不登校」という状態に目を向けるのではなく、その生徒ができていることや得意なこと、好きなことに注目することで、生徒一人ひとりが「自分のよさ」に気づけるようになることが大切であると考えようになった。そして、「自分のよさ」に気づいた生徒が「自分の未来」を楽しみに思えるように育ててほしいと考えるようになった。

【キーワード】

解決志向 解決像 リソース コンプリメント 聴く

研究主題： 自立活動の目標を達成するための ICT 活用

長期研修員 甲斐 大
(教育相談スタッフ)

【研修の概要】

本研修は、自立活動の目標を達成するための効果的な ICT 活用を考察することを目的とし、ICT 活用の視点から自立活動への理解を深め、子どもの実態に沿った ICT 活用の授業実践に取り組みながら研修を進めた。協力校の子どもたちへ、ICT 活用事例を収集・整理したものをもとに ICT 活用の提案をした。「タブレット端末用 VOCA ソフトを活用したコミュニケーション支援」、「視線入力装置を活用した追視や注視を促すゲーム活動」、「遠隔授業でのプレゼンテーションで伝える力を育てる」の3つの授業実践を行った。実践ごとに子どもの変容や ICT 活用の評価をまとめ、効果的な ICT 活用について考察をした。効果的に ICT を活用するためには、一人ひとりの子どもの内面に寄り添い試行錯誤を重ねることが大切である。

【キーワード】

自立活動 ICT 活用 VOCA 視線入力装置 遠隔授業